

新美術館開館記念特別展

速水御舟 ー日本画への挑戦ー



速水御舟《名樹散椿》（重要文化財）

会期:2009年10月1日(木)~11月29日(日)

開館時間:午前10時から午後7時(入館は6時30分まで)

* 新美術館の通常開館時間は、午前10時~午後5時です。

* 本展覧会は開館記念特別展第1弾につき、延長して開催いたします。

入館料:一般1200(1000)円・大高生900(800)円・中学生以下無料

* ()内は20名以上の団体料金、および前売料金

* 前売券は8月1日から発売開始。ローソンチケット(Lコード37323)、
チケットぴあ(Pコード688-746)にてお求めください。

* 障害者手帳持参者は1000円

* 本展覧会は特別展のため、通常展とは料金が異なります。

主催:山種美術館、NHK、NHKプロモーション

特別協賛:SMBCフレンド証券、鹿島、新日本空調、日本設計

協賛:きんでん、コクヨ、越川、セコム、パナソニック電工

協力:日本通運

主な出品予定作品:約120点を展示(一部途中展示替あり)

速水御舟《炎舞》(重要文化財)、《名樹散椿》(重要文化財)、《山科秋》、《桃花》、《春屋》、

《百舌巢》、《昆虫二題 葉蔭魔手・粧蛾舞戯》、《翠苔緑芝》、《紅梅・白梅》、《豆花》、

《オリンピアス神殿遺址》、《暗香》、《牡丹花(墨牡丹)》、《あけぼの・春の宵》、《秋茄子》他

特別出品 《婦女群像》、「渡欧日記」、その他資料類



速水御舟《翠苔緑芝》

山種美術館は、本年10月1日、渋谷区広尾に移転し、新美術館を開館する運びとなりました。開館記念の特別展として、「速水御舟—日本画への挑戦—」を開催いたします。

大正から昭和を駆け抜けた日本画家・速水御舟。23歳で日本美術院同人に推挙され、横山大観や小林古徑ら日本画家を始め、安井曾太郎、岸田劉生ら洋画家にも高く評価されてきました。御舟は、40年の短い生涯におよそ700余点の作品を残しましたが、その多くが所蔵家に秘蔵されて公開されることが少なかったため、「幻の画家」と称されていました。しかし、1976(昭和51)年に旧安宅産業のコレクションの御舟作品105点が山種美術館の所蔵となり、従来からの作品とあわせて御舟コレクションが充実したことは大きなニュースとなりました。初めての御舟の大回顧展として話題となった、33年前の「特別展 速水御舟—その人と芸術—」には8万人を超える来館者がありました。



速水御舟《炎舞》
(重要文化財)

新美術館開館記念特別展では、当館所蔵の《炎舞》《名樹散椿》(重要文化財)を始めとする120点の御舟作品に加え、本邦初公開となる未完の大作《婦女群像》(個人蔵)、および1930(昭和5)年の渡欧日記(個人蔵)も展示します。これらの新出資料を通じて、40歳の若さで急逝した御舟が新たに目指していた方向性が明らかになることでしょう。

「梯子の頂上に登る勇氣は貴い、更にそこから降りて来て、再び登り返す勇氣を持つ者は更に貴い。(中略)登り得る勇氣を持つ者よりも、更に降り得る勇氣を持つ者は、真に強い力の把持者である」と語ったとおり、彼は常に挑戦者であらうとしました。その生涯を通じて、短いサイクルで次々と新しい試みに挑み続けたのです。本展では、山種コレクションの御舟作品をすべて展示し、皆様にいま一度、御舟作品の凄みを体感していただきたいと思っております。



速水御舟《豆花》



速水御舟《牡丹花(墨牡丹)》